



# ねぎしょうちえんだより 10月号



## 自分で目標を決める

園長 大村 弘子

風が心地よい季節となり、子供たちは、力いっぱい走ったり、リズムに合わせて踊ったりなど、体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。

年長ぞう組では、「〇〇ができるようになりたい」と、自分の目標をもち、それに向かって頑張る姿が見られています。たとえば、鉄棒では「布団」「つばめ」「前回り」「逆上がり」など、保育室の壁に貼ってある技を目標に決めて挑戦したり、「つばめの体勢で鉄棒の端から端まで移動する」というように自分なりにアレンジした目標に向け頑張ったりしています。また、自分なりの新しい技を考えて取り組む姿もあります。縄跳びでは、前まわしを1回跳ぶ、1回跳べるようになったら次は2回、2回跳べるようになったら次は3回、というように着実に一つずつ目標をレベルアップする子もいれば、なぜか49回跳ぶという目標に向けて頑張っている子もいます。

“誰かに言われたから、ではなく“自分で目標を決める、”ということがとても大切だと思います。自分の今の状況がよく分かるようになってくる年長児は、自分の力量に合った目標を決めることができます。ここに成長を感じます。自分で決めるから頑張る力がたくさん湧いてくるのだと思います。また、目標には優劣はありません。難しいことができることがよいのではなく、自分で目標を決めてそれに向けて頑張ることを楽しむ経験、頑張ってやり遂げる経験をしてほしいと願っています。自分をより高めていくことのおもしろさを体験してほしいと思います。

“少しずつうまくなっている、“できるようになってきた、”ということを感じることが、子供のモチベーションになりますから、小さな成長でも言葉にして伝え、一緒に喜んでいきます。たとえ目標の回数が跳べなかったとしても「手の回し方が前よりいい感じだったよ」や「ピョンピョンってリズムに乗って跳べているから、次はいけそうだね」など次につながるように言葉かけをしています。目標に向けて取り組むプロセスを大事にしていきたいと思っています。

頑張る力には、友達の存在も大きな意味をもちます。友達と一緒に頑張る、友達の姿に刺激を受ける、友達の頑張りを認める、友達を応援する、できたうれしさに共感する、など友達がいるからこそ、自分の力が発揮できます。リレーやリズム表現などでは、共通の目標をもちみんなで頑張る経験もしています。

台東区では、幼児期から「こころざし教育」を重視しています。「こころざし」とは、“自分はこのようになりたい、”“このような力を発揮したい、”という生きる目標のようなものをしっかりとつことだと私は理解しています。人を敬うことや人の役にたつうれしさ・やりがいを感じることを経験しつつ、自分で目標を決めて頑張ることは「こころざし教育」につながる大切な経験だと考えます。

年長ぞう組では、運動会に向けて、自分の目標を自分で決めることや学級の目標を自分のこととして受け止めることができるようにし、それに向かって自分の力を出し切れるよう、援助しています。9月より園で進めている、自らのよさを認め自己肯定感を育む「エールウィーク」の取組を継続し、一人一人の頑張りを互いに認め合えるようにします。

